

富士森

東京都立富士森高等学校同窓会報

東京都立富士森高等学校
同窓会報 (No.8)

発行日 平成15年4月1日
編集 富士森高等学校同窓会
住所 〒193-0894
八王子市長房町420番地
都立富士森高等学校内
TEL 0426-61-0444

同窓会存続の危機!



今年度入会者は百十九名

卒業生の半数以下

平成十四年度の卒業生は、二百七十四名。そのうち同窓会への入会者は百十九名と半数以下になった。ここ二、三年、入会を希望しない卒業生が目立ち始めたが、ここに至るとシヨックである。理由は様々あると思うが、同窓会の存在そのものが問われていると思われる。まさに存続の危機と言える。

従来、同窓会への入会は母校を卒業する同時にそのまま入会することが、当然との認識があった。同窓会設立以来そうであった。

文書で加入の意思の確認を

平成十一年度から、積立金からの支払いについては、卒業生及び保護者に対して、文書で同窓会についての説明と加

入の意思確認を行わせるようにとの東京都の指導があった。

同窓会では、卒業式の前には会の活動状況を説明し、加入を促す文書を配布するとともに、卒業式後にも保護者にも加入の呼びかけを行ってきた。

また、入学式でも同様に積立金の中に同窓会費も含まれるとの説明を行ってきた。

それに対し、同窓会入会者数は、平成十一年度で二百二十八名、十二年度が二百七十五名、十三年度が二百二十八名であった。十一年度と十三年度に、それぞれ五十名程度の未加入者があった。しかし、十四年度に至っては、加入者が卒業生の半数を割ってしまった。

まさに同窓会の存在意義そのものを問われている。今後の活動をどう展開していくか、今年の総会で皆さんとじっくりと話し合っていきたい。

今年度の総会

6月1日(日) 午後2時から母校で開催
先輩・クラスメート・後輩、お誘い併せの上
ぜひご参加下さい。

この同窓会一年

母校は、創立61年目を迎えました。新たな10年に向けて同窓会も新たな試みに挑戦を始めています。同窓会のホームページもそのひとつ。ぜひ、アクセスを。

平成十四年度事業報告

- ◆**入学式**（4月9日） 正副会長が来賓として出席。終了後、保護者に同窓会の活動について説明。
- ◆**総会**（7月14日） 母校多目的ホールで開催。出席者は31名。平成13年度事業報告及び決算。平成14年度事業計画及び予算案。



▲ 役員会の風景

- ◆**文化祭**（9月15・16日） 同窓会ホットコーナーを開設。歴代の制服や体育祭（仮装行列）・登校風景・旧校舎などのスナップ写真、卒業アルバム等を展示。文化祭に訪れた来校者に一服していただくためにコーヒーや清涼飲料水をサービス。恒例となった人氣の七宝教室（講師 小石会員）で携帯ストラップを製作。参加費（2万1千700円）は、昨年同様PTAとともに東京シヨッパ―社を通じて「伊豆諸島噴火地震救援募金」に寄贈。
- ◆**学校当局との意見交換会**（8月2日） 校長・教頭・事務長と同窓会役員が同窓会活動及び学校の現状等について、胸襟を開いて意見を交換。
- ◆**学校当局との意見交換会**（8月2日） 校長・教頭・事務長と同窓会役員が同窓会活動及び学校の現状等について、胸襟を開いて意見を交換。

- ◆**PTA役員との意見交流会**（9月14日） 文化祭終了後に、PTA本部役員数名と役員が同窓会活動の現状や今後の活動について、意見を交換。
- ◆**学年委員へ交流呼び掛け**（9月） 卒業後10年以内の学年委員190名に同窓会活動についての意見交換を目的に文化祭見学を呼び掛け。しかし、参加者はゼロ。
- ◆**歩行会**（10月4日） 役員4名



昨年度の総会で承認された同窓会ホームページが昨年9月に開設されました。アドレスは次のとおりです。ぜひ、アクセスしてください。皆さんの掲示板への投稿をお待ちしています。

<http://www.fujimori-ob.com/>

- ◆**日本イタリア国際文化交流に参加**（10月30日・11月9日） イタリアのヴェローナ市が主催した日本の伝統文化の紹介及び市民交流に小石会員が七宝焼で参加。在校生たちと交流の樹を飾る木の葉を作成。
- ◆**卒業式**（3月12日） 正副会長が来賓として出席。式後、卒業生保護者に同窓会入会を呼び掛け。前日の予行練習の席で15名に皆勤賞を授与。
- ◆**役員会** 定例会は、毎月第3土曜日の午後2時から小会議室で開催。文化祭や総会、会報発行準備などで数回の臨時会を開催。

イタリア・ヴェローナ市の 日本文化祭に参加

昨年十一月十六・十七日の両日、イタリアのヴェローナ市で、市主催の日本文化祭が行

われた。この催しは、NHK文化センターとミラノ日本総領事館が後援し、日本の伝統工芸や芸能などを紹介、発表しながら、日本とイタリアの市民交流を通じて相互理解と国際親善を図るもの。伝統工芸部門に本校同窓生の小石京子さんが、七宝焼で参加された。

七宝で木の葉創り

内容は、ヴェローナ市で日伊両国市民が木の葉を七宝焼で製作し、「人生」と名付けられた交流の木に飾るもの。イタリアまで行かれないと多くの方々に参加して欲しいと、小石さんが同窓会を通じて母校の在校生に参加を呼びかけた。

小石さんがイタリアに出发する前の忙しいなか、十月三十日と十一月九日の二回、毎年の文化祭でもお馴染みとなった七宝教室が母校で開かれた。校長先生を初め、

多くの生徒と同窓生がイタリアへの夢を託して「木の葉」の製作に励んだ。

市庁舎に永久展示

完成した「交流の木」は、五十号ほどの大きさ。今後、ヴェローナ市庁舎に展示される。イタリアへ旅行する機会があったら、ぜひ立ち寄ってみては。



◀ 木を飾った「木の葉」 ▶ 交流の木



◀ 木の葉の製作にはげむ皆さん



皆さまの作品を携えて参加した「2002ヴェローナ日本文化祭」も無事終了しました。300個以上も準備した素材も全てさばけ、特に豆絞りの日本手ぬぐいは、バンダナとともに大人気でした。作品の前で涙ぐむイタリア女性や会場を一回りして「ここが一番」と日本語で話し掛けてくる方々。文字では書き尽くせない多くの感動の空間がありました。皆さまのご協力ありがとうございました。世界中の子供たちが美しい笑顔で平和に過ごせるよう微力ながら力を注いで行きたいと思っております。
(小石京子)



イタリア・ヴェローナにて



お願い 役員になって

同窓会として、今後活動を活性化していくためには、どうしても人材が必要です。名簿の調整を始め、総会の準備、会報の発行、文化祭への参加、在校生や同窓生への支援等々。行わなければならないことがいっぱいあります。役員会は、原則として月に1回。こうした活動に一部でも協力していただける方を探しています。

ラフソウのいなか

在校生の遺作が絵本に

昨年の四月に、当時三年生だった若狭裕子さんが、悪性リンパ種で亡くなりました。ご両親が、彼女が闘病中にノートにまとめた絵本を自費出版されました。この話題は、1月に新聞でも紹介されました。絵本は、同窓生の経営するくまざわ書店で一冊六百円で販売中です。





平成十四年度総会から

役員を一新、 新たな出発を決意

同窓会の活動が見えない。同窓会は何をやっている団体なんだ。また、会費が高い。なぜ会費が一万円なんだ。会費を何に使っているんだ。こんな声がいろいろなところから聞こえてきている。こうした声に答えようと、役員の間で原点に帰り、これまでの活動を再点検した。そして、役員を一新し、再度、同窓会の活動を見直そうと、この一年、いろいろな議論を重ねながら、新たな試みにチャレンジを始めた。ここでは、その切っ掛けになった昨年度の総会の様子と、今年度の総会で予定していることを紹介する。



平成十四年度の総会は、七月十四日の日曜日、午後二時から母校の多目的ホールで開催された。
長谷川隆司新会長の新たな出発への決意表明と過去の反省からなる挨拶、佐藤公作名誉会長（母校

校長）から同窓会に対する期待の挨拶から始まり、議事に入った。山本保仁氏（昭和四十二年三月卒）が議長に選出され、平成十三年度の事業報告と経過について、長谷川会長及び水越幸雄副会長から、



▲長谷川新会長のあいさつ

決算・監査報告は、中川有子前会計と中田澄子前会計監査からそれぞれ報告され、承認された。続いて、新役員が承認され、平成十四年度の事業計画及び予算案が報告・審議され承認された。

その後、佐藤校長の案内で新装なった母校のパソコンルームや体育館、L1教室、家庭科室などを巡った。

新役員

名誉会長 佐藤公作校長
会長 長谷川隆司（昭和四十一年三月卒）

副会長 水越幸雄（昭和四十三年三月卒）・菱山寛治（昭和四十四年三月卒）
幹事 福田文夫（昭和三十三年三月卒）・中田澄子（昭和三十五年三月卒）・中川有子（昭和四十二年卒）・東浦由理夫（昭和五十八年三月



15年度総会の新たな試み

これまでの総会は、議事はシャンシャンで終わり、後はアルコールが入った懇親会で親交を深めるのが普通だった。当日キャンセルなどもあり、不足分等を同窓会費で賄っていた。会費の用途を明らかにしようと、今年度は総会後の懇親会は、お茶菓子と飲み物程度で同窓会を語っていただき、アルコール入りの懇談は2次会で行うことにした。飲めない方も気軽に参加を。



繰越金の使い道を検討

平成十四年度の繰越金は、約二千万円にのぼる。この使い道が明確でないとの批判があった。これだけ繰越金があるなら終身会費を値下げしろとの意見もあった。しかし、同窓生が一万六千名を超える現在、会報発行だけでも郵送費を含め、一回につき百数十万円も掛かる。繰越金が大い理由として、会報発行が過去数年間でできなかったことが大きい。原稿を依頼し、写真をとり、取材する。それを編集する。すべて役員が仕事の合間をぬって行う。仕事に追われ、どうしても時間が取れずに断腸の念で発行を断念したこともあった。また、会報を送っても、数百通が転居先不明で戻る。それを整理し、住所確認をする。

懐かしい方々からの便り

★教職員から…

- ・佐々木貞造（大和市在住）
学校の益々の発展の様子と卒業生の皆さんの活躍を伺い、大変嬉しく存じます。お陰さまで80歳になり、年齢なりに元気で過ごしています。
- ・豊川紘（所沢市在住）
3年前に富士森高校を定年となり、2年間石神井高校で嘱託をやり、現在は完全に無職となり「サンデー毎日」です。
- ・大角幸子（国分寺市在住）
年をとりましたが元気です。昭和18年頃、学徒動員で軍需工場へ働きに行きました。その頃の生徒さんはどうしているのか懐かしくなります。

★同窓生から…

- ・春日（指田）常子（昭和20年3月卒・昭島市在住）
私ども夫婦、若夫婦、孫3人と賑やかに暮らしております。現在、茶道教授として弟子と一緒に勉強しています。
- ・浜井（竹下）みほ子（昭和24年3月卒・国立市在住）
元気でホームヘルパーをしています。ディサービスなどのボランティア活動の合唱の会でチャリティコンサートをしたり、地域活動で忙しく楽しい毎日です。夫と二人暮らし、70歳になりました。
- ・丸山（青木）香代子（昭和33年3月卒・茂原市在住）
夫の仕事の関係で八王子を出て30余年。その間、あちこちを転居し、30年ぶりくらいに高尾山へ車で出かけました。母校への入口も判らないほど変わっていたのには、ただ驚きでした。
- ・菊島仁（昭和41年3月卒・国分寺市在住）
6月に初めてクラス会を新宿で開催し、田村先生も出席され、22名ほど集まりました。
- ・広沢（山田）英子（昭和45年3月卒・狹山市在住）
60周年記念の同窓会名簿をととても懐かしく、同じクラブで親しかった友人に思い切って手紙を書いてみました。すぐに返事が届き、32年ぶりの再会となりました。同窓会名簿のおかげです。
- ・武井好明（昭和40年3月卒・相模原市在住）
零細企業を経営しています。今まで経験したことのない不況で悩んでいます。とにかく頑張るしかありません。我々の世代が一番苦しんでいるかもしれません。
- ・黒川（石山）京美（昭和51年3月卒・高槻市在住）
一人娘が府立高校1年生になり、何かにつけて「私が高校の時…」と話しています。今の高校生のように携帯電話やパソコンはなかったけれど、私服に校章バッチを着け、それでいて派手でなくみんな自由だったなあ。懐かしく思っています。
- ・太田秀興（平成2年3月卒）
現在アメリカに滞在中。自力で音楽の勉強をしています。
- ・日巻友男（平成2年3月卒・市内横川町在住）
老人施設で介護職として働いています。
- ・廣瀬智織（平成9年3月卒・実家：打越町）
高知大4年。来年のことはまだ決まっていません（母代筆）。

會計 馬場 幸枝（昭 和四十四

卒）・根本猛（平成八年三月卒）
山田賢一（平成八年三月卒）
長島光男（平成八年三月卒）
大町陽子（平成八年三月卒）



文化祭風景 ▲▶

十六年三月卒）

會計監査 松坂章二（昭和四十五年三月卒）
年三月卒）中村京子（平成三年三月卒）
錦織政晴（昭和四十五年三月卒）



基金を創設

新規会員は年々減少するが、同窓会員は増え続ける。終身会費のため会費収入は減り続ける。そこで現在、残された繰越金を有効に使うため、基金の創設を検討中である。

同窓会の活動基盤を考え、将来のNPO化に向けた議論を進めるなか、特別会計として準備基金を創設すること。さらに会員の交流を活性化するため、クラス会や同期会の開催に通信費の一部補助をするための同窓生支援基金、在校生のクラブ活動や学校からの要請に答えるための在校生支援基金の三つの基金創設を検討中である。今年度の総会で皆さんと議論を深めたい。総会に参加できない会員は、ホームページの掲示板への参加、出欠用葉書への書き込み、また文書で同窓会事務局までご意見をいただきたい。

これも手間がかかる。しかし、批判は批判として受け止め、今後、この繰越金を同有効に使うかを検討中である。

OB通信

このページでは、あなたの個人的な情報や活躍を紹介し、皆様からの積極的な情報提供をお待ちしています。投稿の際には近況が判る写真を同封してください。

卒業生の皆さん

お元気ですか

アジアドのおばさんです

昭和三十三年六月一日、アジア大会の時、千人町に開店。二年後の昭



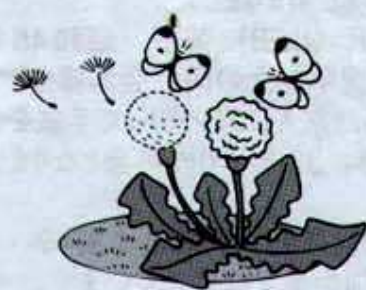
▲懐かしいアジアドのお店

和三十五年に今の場所に移転して以来、富士森高校の皆さんにはいろいろとお世話になり、有り難く思っています。

今売っているパンは、六十円のねじりパンから百七十円のカツパン、イカフライパンまで五十種類以上もあります。卒業した方が久しぶりに来て、おばさん「ギョウザパンは、もう無いの?」「ミートパンは、売って切れた?」などと、以前には売っていた変わったパンのことを話していかれます。味覚の流行なのでしょう、今はもう売っていません。でも、今でも変わったパンはあります。例えば、「チキンパンパン」とか「ツブビー」など。お客様が飽きないよう、そして自分が食べたいパンを期間限定のサービス品として時々作っては売っています。

卒業生の想い出は、数え切れないほどたくさんありますが、一九七二年当時、二階を食べる場所にしていたころのこと、卓球部の皆さまの優しい心遣いがとても印象に残っています。当時の方々にお会いしたいので、ぜひ一度いらっしやってください。アジアドも週休二日制の普及やコンビニの台頭、消費税など、向かい風にも何とか負けず、少しでも多くのお客様に来ていただけるように

定休日は第二日曜日だけです。卒業生の皆さまのご来店を心よりお待ちしております。



伝統の「歩行会」にて

(昭和四十四年三月卒)

菱山 寛治

平成十四年十月四日、富士森高校伝統の「歩行会」に参加しました。

昭和四十四年に卒業して以来の参加であり、今年五十二歳になった私は、三コースあるうちの二つ相模湖駅の集合場所に着くと、頭の中は「不安」の二文字。受付を済ませた在校生、それも自分の子供より若い人たちの中に入って歩き始めました。与瀬神社の境内をすぎた所からは、ただひたすら急な登り坂。このままゴールまで持つのかな?

上り坂の中間点付近で、貧血気味にて「休息」。しかし、再度息を吹き返すと、今度はマイペースのリズ



ムで・・・と言うよりも、「まだまだ若い者には負けないぞ〜!」との体力低下を補うべき気力だけ!!

歩行中は、在校生との会話を楽しみながらと言いたけれど、いやいや、気力だけで歩く私への励ましを受けながら、何とかゴールに到着しました。

久しぶりにかいた汗の気持ちよさ、高尾の山々の新鮮な空気を胸いっぱい吸いながらの一日は、私の年齢を十歳若返らせてくれたのでは...?と感じたのは、最後まで自分の年齢を認めたくない「負けん気」だったのでしょうか。性格だけは、高校時代のままだったようです。

先生 お元気ですか

ありがとう 富士森高校

野間 恵子 (昭和45年3月 転出)

三十余年ぶりの西八王子駅前に変貌し、甲州街道の銀杏並木もすっかり大きくなっていて。浅川の土手は整備され、校舎は立派に建て変わっている。正門を入った所で校歌のレリーフを見た瞬間、「緑をたためる秩父山脈」のメロディーが蘇ってきたのは、ちょっと驚きだった。今勤めている学校の校歌でさえろくに歌えないのだから。あまりキョロキョロしていると怪しい奴と思われそうだが、グラウンドに出てみると昔と変わらない広さと土の色である。やっぱり私はここに勤めていたんだと確信する気持ちになり、改めて秩父山脈を眺め浅川の流れに見入った。建物が増え、山紫水明とは言い難くなっているけれど、このロケーションの素晴らしさは変わらない。私は、昭和四十二年四月にこの地に赴任した。清冽な空気と水、鮮やかな山稜。男子の詰め襟と女子のセーラー服姿。学校群制度になったばかりだったが、生徒が不勉強だと感じたことはなかった。年輩のベテラン先生がたくさんいらっしやった。今思えば公立高校として理想的な学校だったのである。いろいろ個性的な生徒がいたし、クラブも勉強もそれなりにして、学校行事も盛んだった。美しい自然に囲まれた伸び伸び楽しい高等学校。新米教員としてこんなに恵まれたスタートはなかった、と今は思う。ところが因果なことに、無頼な学生生活を送った私は、闇市の匂いを残す池袋の路地や新宿の怪しげな繁華街が好きだった。教育者として相応しくない嗜好を捨て切れぬまま、何食わぬ顔で教壇に立てる日もあるが、爽やかな生徒と環境に馴染めず登校拒否になって、高尾行き電車に乗れない日もあった。生徒にも先生方にもずいぶん迷惑をかけたのである。恥多き日々であり、再び訪れることはあるまいと思っていた。ところが定年間近になって、犯人が犯行現場に戻るような気持ちと言うか、故郷へ廻る六部の気の弱りと言うか、そんな気持ちになってきていたところに、同窓会の菱山さんから連絡があった。懐かしくてたまらず、土曜日の富士森高校をそっと覗き、その足で四十四年の卒業生数名の飲み会に合流させてもらったのだ。

四十五年四月、ごみごみした下町の定時制工業高校に転勤した私は、その後商業高校、三つの普通高校に勤務。たくさん的高校生と付き合い、あと二年で定年を迎える。馬鹿な子、やんちゃな子ほど可愛い気持ちも、直向きに勉強して進路を切り開こうとする生徒を励ます気持ちも散々味わい尽くしたように思う。障害を抱える生徒も、心身のバランスを崩した生徒も、一人も切り捨てないという気持ちだけを後生大事に抱えてきた。およそ教育者に相応しくない、「でもしか教師」にすぎない私が、ここまでやってくることができたのは、富士森の三年間に会った先生方や生徒の「情け」があったからである。故人になられた南本、野口の両先生、山岳部の大道寺、岡谷先生、同学年を担任させてもらった開、北川先生、お名前を挙げきれない沢山の方々に支えていただいた。今だったら、とっくに問題教師として都教育研究所送りになるような私を非難もせず、つまらない授業に付き合ってくれた全ての生徒諸君に、お詫びと感謝を申し上げたい。

富士森時代に山岳部顧問になり、いきなり夜叉神峠から鳳凰三山、夏の飯豊山に登った。海岸育ちで、学生時代は映画とジャズ喫茶に入り浸っていたものだから、きつかった。二度と山登りなどするものかと思った。ところが今、私は山に恋をしているようなのである。あらゆる山岳書を読み漁り、奥多摩、火打山、濁沢を歩いてもみた。富士森高校の三年間は定年後の楽しみまで与えてくれたような気がしてならない。



クラス会だより

三年ごとのクラス会

(昭和五十年三月卒)

鴨下裕明

九月十四日に三年振りのクラス会を行いました。三年振りというより、ここ何回かは、ほぼ三年ごとにクラス会を行っています。前から三年が経つと、自然に次のクラス会はいっ頃やるの、という声が聞こえて来て、



あわてて幹事会を開き、三、四カ月前から準備が始まり当日を迎えるわけです。

三年D組、クラス人員は男二十二名、女二十三名、担任一名の計四十六名で、今回は、男八名、女十四名、担任一名の二十三名が出席してくれました。

高校を卒業してから二十八年、頭髮が少し寂しい人、体型が全く変わった人など、いろいろいますが、一たび宴会が始まると昔話に花が咲き、いつの間にか高校時代に戻っています。我々三Dの担任は、河内美恵子先生で、家庭科の先生でした。七十八歳という高齢にもかかわらず、このところ毎回参加していただき、先生の周りには沢山の人が集まり、昔話や子育てのことなどで話が盛り上がります。

夕方六時に始まった宴会もあっという間に夜の十時。三年後の再会を約束し、家路に着く者、更なる友好を深めるため二次会に流れていく者に分かれたのでした。

最後に、ある友が別れ際に、人生四十六年生きてきて、高校生活のうちたった二年間一緒にいたクラスの人たちが、毎回このような形で会えるって素晴らしいことだよなんて言っているのが、とても印象に残っています。

ます。

三十六年振りのクラス会

(昭和四十二年三月卒)

梅沢(高橋)明子

二〇〇三年二月一日、昭和四十二年三月卒業、三年A組の三十六年振り(らしい)同級会がありました。ボランティアで幹事をしてくれた浜中さん、山下さん(すべて旧姓)のご尽力で、クラスメイト五十四名のうち四十三名に連絡が取れたそうで、そのうちの十七名が京王プラザホテルに集まりました。

当日は、中央線の人身事故があった、何と七回も電車を乗り継いで来てくれた人もありました。始めのうちには名前を聞いて、昔の面影をたどっていました。それがあつという間に三十六年間の時が埋まって、かつての十八歳の時のような気分になっていました。

幹事さんの心遣いで会場の時間を十分にとっていただけましたので、皆思い切りおしゃべりに花を咲かせました。二次会も含めて約五時間、いくらおしゃべりしても語り切れな私たちでした。その夜、きょう再会したクラスメイトの顔を思い浮か



べると、不思議なことに、その顔は、きょう会った顔ではなく、三十六年前の乙女の顔でした。本当に懐かしく楽しい一日でした。お二人の幹事さん、素敵なお一日をどうもありがとうございます。

編集後記

毎年のことながら、総会の時がすぐに来る。一年とは早いものである。総会の前に会報を発行しなければならない。何を載せようか、原稿が集まらない、どうしようと悩みながら時は過ぎていく。総会間際の発行、ごめんなさい。